

平成24年 水稻管理情報

No.3 (6月1日発行)

田植え後の水管理について (主に中干し前まで)

1、田植え直後

活着を促進するため深水とします。

(特に山間部では1℃でも水温を高めるため、日中浅水夕方から水を入れて深水とします)

2、除草剤散布後

約7日間水を止めておきます。

(除草剤は土の表面に薬剤の薄い膜をつくり、そこに雑草の芽が触れて枯死させます。そのため水が十分ないと安定した膜が作れないため、効果を発揮できず、草が残ってしまいます。田面の高い部分に草が多く残ったりするのもこのためです。)

3、分けつ期

間断灌水とします。

(6月に入り暖かくなると地温も上昇します。耕起前に雑草が多かった圃場や堆肥を投入した圃場では有機物の分解が始まりガスが発生します。そのときは足かた水程度に落水し、根の健全化を図ります)

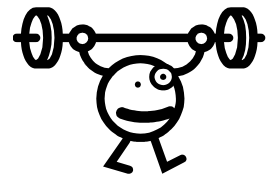
4、その他 (台風接近前後)

台風接近前後は深水にすることで被害を軽減することが出来ます。

(通過前後の風ずれによる裂傷の軽減。通過後のフェーン現象の蒸散による稲体の脱水軽減)

まとめ

水稻は必要以上の水のためっぱなしにより、元気がなくなります。管理上問題ない範囲でなるべく水をあてないことが根の活力を保ち、生育期間を通じて活力ある稲を作っていくことになります。だから水管理は「細く長く」ということになります。



水管理の基本の考え方

細く長く水をあてること

J A おおいた竹田事業部 農産課 63-4994
豊肥振興局農山村振興部集落・水田第二班 63-1172